

みどりの杜俳句会

万葉の窓辺画張をひらきをり

佐山けさ子

山法師隙なく開き動きなし

木本 弘子

青嵐木々天辺の強く揺れ

鈴木 啓子

山法師わづかな風に揺らぎけり

飯野はつ志

ポピー真っ赤峠へつづく道の端

高橋 ツ子

山斜面つつじ広がり赤ピンク

田村 好子

山法師枝段段に日の当る

西 つる

軽やかにリハビり春の芝生かな

今村千鶴子

青葉風折に激しく木木を揉む

吉田 愛子

揚雲雀荒川の瀬に竿伸ばす

落合 七郎

クレソンの増えて裏川細りけり

関口 侑子

空晴れて垣に絡まる鉄線花

野口利江子

山法師花卉真白く明るかり

梅沢きくえ

鹿の来る山路水仙植えてあり

小宮 勉

ゆるやかな川面すれすれ燕飛ぶ

岡部富美子

田の隅をトタンに囲み苗田なり

鯨井 和枝

雀来て栗の花間に潜り込む

土屋 厚子

川石の苔食む群や鮎の稚魚

初雁 功子

霊山の参道長しまむし草

山田 美子



人権シリーズ

405

『正しい理解を』

大学に入学したばかりの頃、さまざまなサークル活動の勧誘を受けました。その中に「ぶらっけん」というのがありました。それが「部落研」で、部落問題研究会だと理解するには時間がかかりました。私は、一九七一年に大学に入学しましたが、入学の二年前に同和对策事業特別措置法が制定され、政治や社会の対応が大きく進展している時代でした。私は部落問題の「ぶ」の字も知らず、同和对策を「童話の対策」などと思っていた無知な学生でした。

小学校の教員になってから、差別や同和问题について学んできました。そんな折、ある出来事を思い出すようになりました。

高校の部活動の大会に向かう車中、友人が「Aさんの家はその丘の向こうだよ」と言いました。何のことだかわかりませんでした。なぜかずっと頭の片隅に残っていました。就職してから、その丘の向こうが同和地区であることを知りました。友人はそこが同和地区であることを知っていてわざわざ言ったのだろうか。家を教えることで何を伝えたかったのだろうか。あの時、「Aさんは、部落の出身で俺たちとは違うのだ」などと吹き込まれていたら、私のAさんに対する態度は違っていたかもしれません。

このことを思うと、Aさんの出身を知ったのが、部落差別や同和问题について理解してからで良かったと思えました。何も知らない状態で誤った情報を受け入れてしまっていたら、その後のAさんとの付き合いは続いていたかたかもいれません。

今なお続く部落差別や同和问题の解決を図るため、私たちは常に正しい知識を学んでいかなければなりません。

東秩父村教育委員会教育長 小林 洋介

東秩父村教育委員会開催のお知らせ

日時 7月26日(水) 午後1時30分～

場所 役場2階小会議室

問合せ 教育委員会事務局 ☎82-1230

